

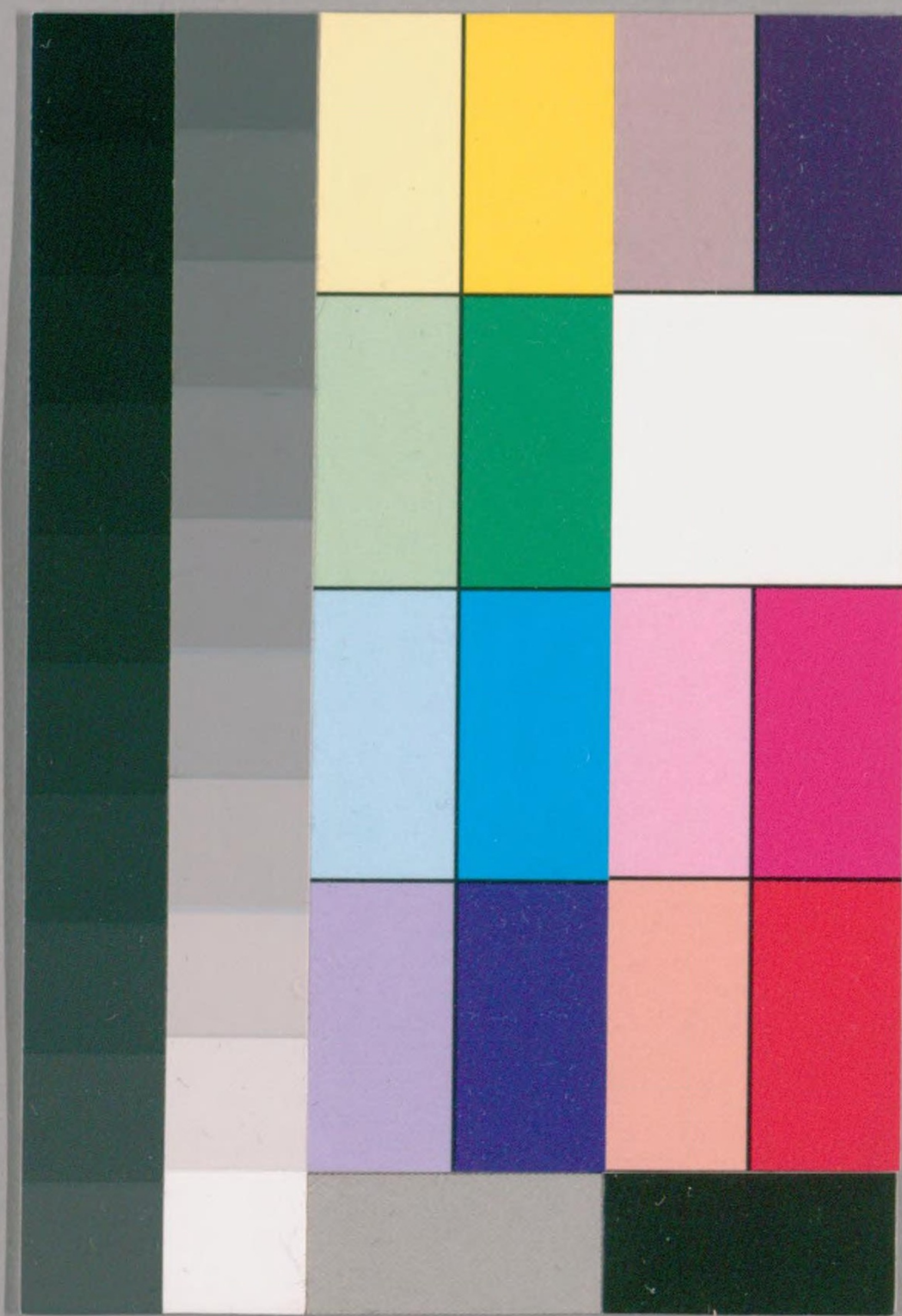
増補地錦抄

八

五之巻

實色付類	冬木	竹笹	松	栴類	弁桂
七丁	十七丁	十六丁	十五丁	十三丁	初丁

851-5



国立国会図書館 請求記号 851-5
 タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用



増補地錦抄巻之八

春中未通

春中未通 花うらこん久本

おしつお百草ともしのふさ
枚有するの毛すあまら著
ありといのり

春未通

ゆき 花うらこん極丸花実
ゆき 葉粒の山査及花

あやししとこのがよのり
河のあよん

ざがん 本も葉も九葉分の
どく実をえのき

あつ地あて風味九葉分のとく

増補

あつ地あて風味九葉分のとく

あつ地あて風味九葉分のとく

あつ地あて風味九葉分のとく

あつ地あて風味九葉分のとく

あつ地あて風味九葉分のとく

五ノ一

吉田待郎氏寄贈本



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

851
5

唐の胡椒のついでに唐の胡椒
唐の胡椒のついでに唐の胡椒
唐の胡椒のついでに唐の胡椒
唐の胡椒のついでに唐の胡椒
唐の胡椒のついでに唐の胡椒
唐の胡椒のついでに唐の胡椒
唐の胡椒のついでに唐の胡椒
唐の胡椒のついでに唐の胡椒
唐の胡椒のついでに唐の胡椒
唐の胡椒のついでに唐の胡椒

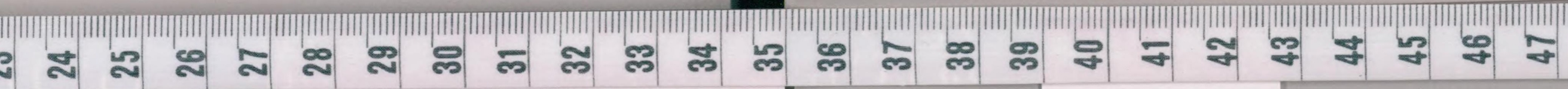
佛の楯のついでに佛の楯
佛の楯のついでに佛の楯
佛の楯のついでに佛の楯
佛の楯のついでに佛の楯
佛の楯のついでに佛の楯
佛の楯のついでに佛の楯
佛の楯のついでに佛の楯
佛の楯のついでに佛の楯
佛の楯のついでに佛の楯
佛の楯のついでに佛の楯

白南天 天とあるは雲の
白南天 天とあるは雲の
白南天 天とあるは雲の
白南天 天とあるは雲の
白南天 天とあるは雲の
白南天 天とあるは雲の
白南天 天とあるは雲の
白南天 天とあるは雲の
白南天 天とあるは雲の
白南天 天とあるは雲の

木樨子 花のついでに木樨子
木樨子 花のついでに木樨子
木樨子 花のついでに木樨子
木樨子 花のついでに木樨子
木樨子 花のついでに木樨子
木樨子 花のついでに木樨子
木樨子 花のついでに木樨子
木樨子 花のついでに木樨子
木樨子 花のついでに木樨子
木樨子 花のついでに木樨子

唐の南

五二



花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木
花も木
花も木

花も木



国立国会図書館 請求記号 851-5
 タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用





国立国会図書館 請求記号 851-5
 タイトル 『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

表角

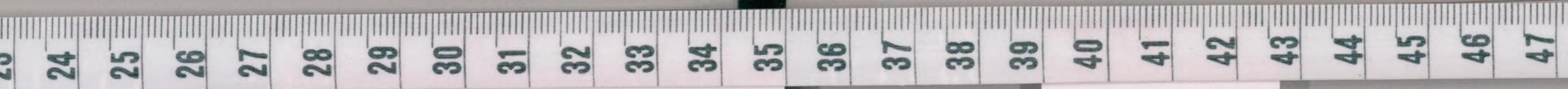


五十六

五十七



五十七



国立国会図書館 請求記号 851-5
 タイトル 『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用



五六

花のつぼみ

花のつぼみ



国立国会図書館 請求記号 851-5
 タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

中田菘 四尺斗よりくちまきつるの
みんぐらう

自菘 花より一つ〇の自菘ハ
七尺斗六七寸すち自菘と
りふまき九尺七寸

ひめぢら 白とけ糸の二種あり木ハ
四尺斗すちとめても花さ
かりじよも花おもしろい

葎茄桂 葎系ハつげのごとくして
木ニまうして生ん葎
をころり

深梅りなき 通ぢりそ花が
つふつらむりなき

中ぢら ひつとる者久めり花
みんぐらう

大豆菘 白文ニそんんぢらう
六尺斗よりくちまきつる
してうく花付ッ

土用菘 ひめ菘の花形あて
花さくゆへよどつらう
ちらとりふか花さめやうよ
んぬり

五味子 葎がらつとるの
水ニ入テつらめに整ふころり
なき毛黒クもろろつとる用
るんぬり

木天菘 葎系ハ木の
つらり料理ニ用
葡萄 大ちこ小ちこニまき
はちろくごりて者

絡石 葎がらつとるの
さきゆかりりし乃樹石
をころり

蓮翹 木ハ佳のごとく
くちまきつる
まんげごといふハ
やみごのこ
丹心冬 花より白
二日

蓮草 秋まわり味
わきり

凌霄 花ハ赤ク
らう

黄玉 花ハ赤ク
げ

黄梅 花形梅
まんげ

花のよき故に金糸をたるとして
うつくしきもよきあり

壁生るハコナミのハコナミ花のつこのごとく
ふくよはれ月のかりおし秋紅
よきすうりの如し

○ 荆棘乃るひ通

海守ウミモリ花ハナいじりうたひと
大つとん

長春チンチュンハナハナあきやうにらん
四季シキくまひとく

通系秋中秋初

百部桂ヒャクブキ花ハナのハナ香カは白シロ系
とらうた云

らうたラウタ花ハナさうらうらんらん
海守ウミモリハナハナ後ノチ用ヨウ

白芍薬ハクシャクヤクハナハナ白シロ系ケイ花ハナ候コト
栞シキあはらん

得々長春トクトクチンチュンハナハナいじりうたひと
四季シキ

牡丹ボタンハナハナいじりうたひと
四季シキ

芍薬シャクヤクハナハナいじりうたひと
四季シキ

箱根ハコネハナハナいじりうたひと
四季シキ

荊花シロバナハナハナいじりうたひと
四季シキ

○ 辛夷シニギのハナひ木

春ハル初ハツメ中ナカハナハナいじりうたひと
四季シキ

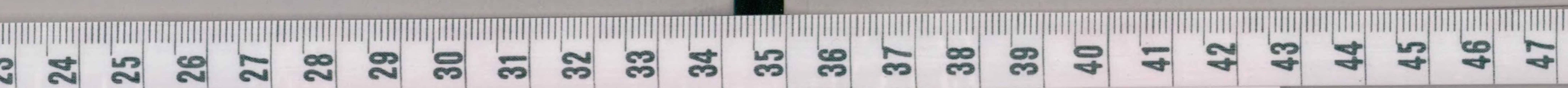
唐カラ荊シロバナハナハナいじりうたひと
四季シキ

山ヤマ柝シロバナハナハナいじりうたひと
四季シキ

唐カラ荊シロバナハナハナいじりうたひと
四季シキ

のハナいじりうたひと
四季シキ

辛夷シニギハナハナいじりうたひと
四季シキ



系初（五）の正名は「一名と本
字た云初ニ系おしつらる
のこ」と

白蓮（五）花 白のくまみん其花形
わてまんげのこ

玉園（五）花 玉園花とまを
こがしこりまうせうりけあり
志でこがしこり名別の也
いの河かまおまあり

あらし（五）花 系ハ後ニほは花
白く大つらんを
さ花形ありいハ一日し物味
あつらんニ志がひらげのい

あらし（五）花 系ハ後ニほは花
白く大つらんを
さ花形ありいハ一日し物味
あつらんニ志がひらげのい

一をわりひめこづりたは

木蓮（五）花 木まんげ白まんげ
木まんげハ花又黒し

木まんげハ花又黒し

大山蓮（五）花 玉園花同をより
こがしこり名別の也

あらし（五）花 系ハ後ニほは花
白く大つらんを
さ花形ありいハ一日し物味
あつらんニ志がひらげのい

あらし（五）花 系ハ後ニほは花
白く大つらんを
さ花形ありいハ一日し物味
あつらんニ志がひらげのい

ゆり又咲きほらこ

○木蓮（五）のらひ（五）木蓮

木蓮（五）花 系ハ後ニほは花
白く大つらんを
さ花形ありいハ一日し物味
あつらんニ志がひらげのい

あらし（五）花 系ハ後ニほは花
白く大つらんを
さ花形ありいハ一日し物味
あつらんニ志がひらげのい

あらし（五）花 系ハ後ニほは花
白く大つらんを
さ花形ありいハ一日し物味
あつらんニ志がひらげのい

一をわりひめこづりたは

木蓮（五）花 木まんげ白まんげ
木まんげハ花又黒し

木まんげハ花又黒し

大山蓮（五）花 玉園花同をより
こがしこり名別の也

あらし（五）花 系ハ後ニほは花
白く大つらんを
さ花形ありいハ一日し物味
あつらんニ志がひらげのい

あらし（五）花 系ハ後ニほは花
白く大つらんを
さ花形ありいハ一日し物味
あつらんニ志がひらげのい

ゆり又咲きほらこ

白絹（五）緬（五）花 系ハ後ニほは花
白く大つらんを
さ花形ありいハ一日し物味
あつらんニ志がひらげのい

あらし（五）花 系ハ後ニほは花
白く大つらんを
さ花形ありいハ一日し物味
あつらんニ志がひらげのい

あらし（五）花 系ハ後ニほは花
白く大つらんを
さ花形ありいハ一日し物味
あつらんニ志がひらげのい

ひとの言ふはゆ糸にありけり
花ハ於ニまててクニミぢぢ

柳ろひ木

独揺柳 本わそくまじれ糸の

めちぎぎ 立花はほふめ柳こ
本ちぢれていとこのじ
を中よりめ大キクアんめり

○梨子ろひ木 春中

こがし 花ハ白ー梨子をク
か又あー

青梨子 春あそくもー

大ぢれいしきぢれろり木

見どり柳 やあそく

水あー 春あわく丸ー

まろと 春んとーのいー

まろめろ 花はうんだれとくろ

清梨子 春くちいさき実あり
いゆあーちらふ

○柿のろひ木

ぢんない 大キク年丸上

まろたん 年大キー

春んとー 春ー大キク上

春んとー 春あそく

春んとー 春あそく

根根 春あそく
ゆめり味に梨子れ

こめ 春あそくー中

まろたん 大キク年ー春あ

甲助丸 中々丸

加羅 中々丸 中々丸 中々丸

大平 大キク平

あまのり 中々丸 中々丸 中々丸

ちちや 中々丸 中々丸 中々丸

甲助丸 大キク丸

大棟 中々丸 中々丸 中々丸

八右衛門 中々丸 中々丸 中々丸

さざり 中々丸 中々丸 中々丸

夜六 中々丸 中々丸 中々丸

○栴 四季ニ葉を

祝栴 中々丸 中々丸 中々丸

金栴 中々丸 中々丸 中々丸

栴 中々丸 中々丸 中々丸

栴 中々丸 中々丸 中々丸

栴 中々丸 中々丸 中々丸

栴 中々丸 中々丸 中々丸

栴 中々丸 中々丸 中々丸

栴 中々丸 中々丸 中々丸

栴 中々丸 中々丸 中々丸

栴 中々丸 中々丸 中々丸

栴 中々丸 中々丸 中々丸

栴 中々丸 中々丸 中々丸

山姥

五十三

○栗の多し木を切

丹波大栗 料理あり

新丹栗 七月より八月旬

あはらり 中々い

新栗 唐蓮肉の

○山姥のし木

新倉 大はらり木と栗を長

くまわりしつれれたら花とこ

三皮栗 一年ニ三皮を喰て

あはれ栗 くりらうい木をた

新栗 くりらうい

杜之世 長四季木にあり自然

日向之世 にはぶあは味う

柘栢 花の秋実の

耳松極 花の秋実の

雌赤 花の秋実の

榎枋 花の秋実の

いぬ之世 料理ニ用

花柘栢 花の秋実の

新木 花の秋実の

らみ 花の秋実の

系陽 花の秋実の

さうらの名はゆかり木ニハなま
ろくたさののわハなまろく

かぐ 通夜中
わらさののひとくは白
と後英

びやう通夜中
英陽 花うらん又花中ニ金の
ありそふハ梅のごとく

下野 通不表赤夜中
花白トナハ赤のニまを
む形くうこそまりの

少 あまのつげのやうにて木
モク のひく地花散
うけとりひてはふハなまあり

わさぎわらうららなわり

耳茶 通赤赤
花秋わらさのしらさき
わらうららふとあまらや

すらよじけ細末一て用ル
世るにてつらよハルきよとあま
らとよあやまうこ子たす

く のあまらやわは木ヲ金
花多たつハ花又ままま
夜ハ赤又秋のれむさうとの

やうに月あう冬ハ花うれて
あう 但ままま花四季
花ニまのやをまのあわが

茶醜 通春中末
花黄又アヤうとひと
ありさなまりの木乃

梶 木
葉ハあやうの葉乃てく
花信七月七八ニハ葉ハ信

あ 木
葉ハあやうの葉乃て
秋ニ南天のごとく

百日紅 木
花又それるいひと
やうこトアハなまらう

傍骨木 通木長末
葉ハ葉の葉乃てく
白キ花はく

え 木
葉ハ葉の葉乃てく
やうトにつくはなまらう

やうにちごうらハ食ス

照著 雌黄天有意 歎冬 誤綻
暮春風 なまらう やうのやえ

の山吹 いとばらう のこ
まのく こ少とあり け詩ハ今

ソハ傍房 逢著歎冬 花をす
吟行日 已斜十二街 中春五遍

馬蹄 今去入誰 家註 日公
任朗詠 載歎冬 是已誤リト

アリ本草 綱目 十二月用 花
青ハ葉 葉 去主 一寸 上 より 毛ハ
料 厚 母 丸 なるのなるあり立

木尻カゲ 初中 木尻カゲ いたるのぞくを色
あうすりうの二種あり

花ハ冬ノ草どもちりりて
うしとぞ藤フジ 藤フジ ハまね上よ
ほやう

○冬木之分

向テ四季ニ養ふれば 冬ニは 松マツニ 松マツニ
きはじとふニ記スマ 養テ 椿ツバキは 椿ツバキは
養ハるハ 冬ニ木あり 松マツは 松マツは
しめて 養ハるハ 冬ニ木あり 松マツは 松マツは
して 養ハるハ 冬ニ木あり 松マツは 松マツは

○松のろし木

雄松オスマツ 雄松オスマツ たいふの松あり

赤松アカマツ 赤松アカマツ たいふの松あり
枝葉に用ても木は補ふ也

ちり見松チリミマツ ちり見松チリミマツ たいふの松あり
とほりごとく

五葉松イタヤマツ 五葉松イタヤマツ たいふの松あり
とほりごとく

唐松カラマツ 唐松カラマツ たいふの松あり
とほりごとく

ひめ松ヒメマツ ひめ松ヒメマツ たいふの松あり
とほりごとく

後初園士ニ多クあり 松マツは 松マツは
とほりごとく

麻呂松アサヒマツ 麻呂松アサヒマツ たいふの松あり
とほりごとく

比たあふぬやう 松マツは 松マツは
とほりごとく

霜しもやう 霜しもやう たいふの松あり
とほりごとく

○竹のろし

頌和名ニ竹タケ非木ヒキニ云
を通用あり

かすなげ 破竹のつらみつらみ乃
用ル多ひるれいあけやのやうに
は系竹のひらきつらみのやうに

ちりのひらき竹のつらみつらみ乃
のんかめさゆんあり平のつらみ

箱板竹 今多くは細玉は竹

金竹 竹のなまきこころこふ
一節づゝる筆竹たりのやうな

若竹 若竹のつらみつらみのか
竹の若竹のつらみつらみのか
と文字をとらぬかゆありは竹
のまきつらみつらみのか

流竹 流竹のやうなつらみつらみ

鏡 鏡のつらみつらみのか

鳳凰竹 鳳凰竹のつらみつらみのか

あまの竹 あまの竹のつらみつらみのか

えら下色とりをさし竹あり
冬竹の子おゆん
りくとも又竹のつらみつらみのか
物や平の煙草は沙令百歳末
船のつらみつらみのか
帯のつらみつらみのか
の中荀生ゆん又孟宗竹云

○ 笹たるひ

焼系 焼系のつらみつらみのか
少やまのつらみつらみのか

榎桐竹 榎桐竹のつらみつらみのか
やうなつらみつらみのか
やうなつらみつらみのか
やうなつらみつらみのか
やうなつらみつらみのか
やうなつらみつらみのか
やうなつらみつらみのか
やうなつらみつらみのか
やうなつらみつらみのか

若後笹 若後笹のつらみつらみのか

白丁のつらみつらみのか

箱根笹 箱根のらびに笹

竹笹終

栲柏 多クは舎よりおゆ俗

かまらうのぶいともそとよこす
まふかんり 岩澤まのこに
まむニつられてより木のこま
ありとゆいこまおたこ

拍模 別名みまもともか

いば 葉もかまわり木
扱(ちく)のびり

野笹 葉らうこ

根笹 やまらこ

黒栲柏 葉らうこ

えん 栲柏 葉らうこ 日本接
えん 栲柏 ちくをふゆまら

木栲柏 葉らうのびて木

唐栲柏 葉らうのびて木
まむかまらぬの極

ひびろ 葉らうのびて木

松 このひの木はまふけし山
ひの木はまふけりてまふ
ひの木はまふ

唐ひば 葉らうのびて木

をらふてそとあふ又このて
かまらうのぶいともそとよこす
まむニつられてより木のこま

びざだん 葉らうのびて木

木は香氣を和らげたり

あ ひびろとひらひ

あ ひの本はまふけりてまふ

まむかまらぬの極
まむかまらぬの極
まむかまらぬの極

あ 葉らうのびて木

あ 葉らうのびて木

そくそくびやくのこ

ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん
ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん
ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん
ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

いぬ ぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

根 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

はぐり ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

から ぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

羅漢樹 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

のぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

虎尾 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

ひめ ぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

しろ ぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

柳 ちのぼん ちのぼん ちのぼん ちのぼん

楹いん けらりの木の葉のつらいつらいつら

ひんぎひんぎ 葉のつらいつらいつら

根こん 葉のつらいつらいつら

葉は 葉のつらいつらいつら

木き 葉のつらいつらいつら

楸きゅう 葉のつらいつらいつら

楹いん 葉のつらいつらいつら

ひんぎひんぎ 葉のつらいつらいつら

根こん 葉のつらいつらいつら

葉は 葉のつらいつらいつら

木き 葉のつらいつらいつら

楸きゅう 葉のつらいつらいつら

楸きゅう 葉のつらいつらいつら

葉は 葉のつらいつらいつら

木き 葉のつらいつらいつら

楸きゅう 葉のつらいつらいつら

葉は 葉のつらいつらいつら

木き 葉のつらいつらいつら

楸きゅう 葉のつらいつらいつら

楹いん 葉のつらいつらいつら

ひんぎひんぎ 葉のつらいつらいつら

根こん 葉のつらいつらいつら

葉は 葉のつらいつらいつら

木き 葉のつらいつらいつら

楸きゅう 葉のつらいつらいつら

楸きゅう 葉のつらいつらいつら

葉は 葉のつらいつらいつら

木き 葉のつらいつらいつら

楸きゅう 葉のつらいつらいつら

葉は 葉のつらいつらいつら

木き 葉のつらいつらいつら

楸きゅう 葉のつらいつらいつら

唐梔子 木通の中末 花白く中へんを

玉つぎ 葉のらのごとく 丸一色

換木 ひびき 花白く中へんを

桐 きり 花白く中へんを

唐楸 とうしゅう 花白く中へんを

唐楸 とうしゅう 花白く中へんを

まき 葉のらの木のこ

白 葉のらの木のこ

梔 葉のらの木のこ

楸 葉のらの木のこ

桐 葉のらの木のこ

唐楸 葉のらの木のこ

唐楸 葉のらの木のこ

唐楸 とうしゅう 花白く中へんを

玉つぎ 葉のらの木のこ

換木 ひびき 花白く中へんを

桐 きり 花白く中へんを

馬酔木 ばすいぼく 花白く中へんを

唐楸 とうしゅう 花白く中へんを

桐 きり 花白く中へんを

唐楸 とうしゅう 花白く中へんを

三



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用